

授業科目(ナンバリング)	ソーシャルワーク実習指導 (社会)Ⅱ(DC303)			担当教員	野田 健・大島 啓・梅野 潤子 中村 尚生・山下 彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」では、ディプロマポリシーに照らし、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」による実践教育を柱に、専門知識・技能を習得し、それらを国際社会及び社会生活における様々な課題に適用して解決を図ることができるようになることを目的とし、次の4点を授業のねらいに据えている。</p> <p>① <u>ソーシャルワーク実習の意義について理解する。</u></p> <p>② <u>ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。</u></p> <p>③ <u>社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。</u></p> <p>④ <u>実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。</u></p> <p>この科目は、実習の事前準備を行う時間である。人をかけがえのない存在として捉え、生活課題を抱える人々を支援し、地域社会の課題に対応する能力を身に付けるための事前準備を行うことを目指す。</p>							①④⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のことを振り返って自己覚知し、実習課題を明確にすることができる。 ・実習を行う実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する情報を集め、説明することができる。 				個人プロフィール 実習計画書 授業内外レポート	10% 5% 5%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・実習において利用者や関係者と適切な関係を築くための基礎的な面接技法、礼儀作法等を用いることができる。 ・実習において必要とされる記録の取り方、実習日誌・礼状の書き方等を身につけ、書面による適切な情報伝達をすることができる。 				参加姿勢 実習計画書 授業内外レポート	30% 5% 25%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な実習の達成課題を具体的に立てている。 				実習計画書	20%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「参加姿勢」(30%)は授業や課題への取り組み姿勢を評価する。「授業内外レポート」(30%)は、授業で随時課した課題の内容を評価する。「個人プロフィール」(10%)「実習計画書」(30%)は、それぞれ出来栄を評価する。なお、提出物は締切厳守である。これらの評価のフィードバックについては、授業内に個別・集団指導の形式にて行う。</p>							
授業の概要							
<p>この授業では、担当教員がそれぞれ少人数クラスを受け持ち、15回の授業を展開する。23日間にわたる本格的な「配属実習(ソーシャルワーク実習Ⅱ)」が効果的に進められるよう、事前に以下のことを行う。①実習分野(利用者理解含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的知識の整理と確認、②実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的知識の整理と確認、③実習先で必要とされるソーシャルワークに係る知識と技術の整理と確認、④実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解(個人情報保護法の理解を含む)、⑤「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解、⑥実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成。以上①～⑥について、ポートフォリオで課題提示や諸連絡・指導をしつつ、授業でディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを行いながら達成していく。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書・指定図書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『最新 社会福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習[社会専門]』中央法規</p> <p>参考書：小六法編集委員会(2023)『福祉小六法 2023年版』みらい(法律を適時確認するために活用)</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

ソーシャルワーク実習は社会福祉士養成教育の中心的な部分である。この機会を十分に活用し「ソーシャルワーカーの卵」としての自覚を深めてもらいたい。実習先において、多様な社会的・家族的・個人的背景をもった利用者と接するなかで、自己ならびに他者に対する理解の枠組みが根底から揺るがされる場面に遭遇することもある。さらに対人関係や自己の未熟さに戸惑うかもしれない。自分を見失うことなく、幾多の試練を成長につなげていくには、主体的な事前学習によって、自身の問題意識を深化・明確化させることが不可欠である。各自の研鑽に期待する。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	全体オリエンテーション	「実習」の位置づけと意義、その目的・課題についての基本事項、授業の構成と方法、スケジュール、評価方法等について確認する。	予習:実習で何を学ぶのかを整理してくる。 復習:授業内容をまとめる。
2	個人プロフィール表の書き方	実習先に提出する個人プロフィール表に関する理解を深め、作成に入る。	予習・復習:個人プロフィール表を完成させる。
3	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解	実習で接する個人情報と福祉専門職の守るべき守秘義務についての理解を深める。「個人情報保護に関する誓約書」を作成する。	予習:個人情報保護、倫理綱領について調べる。 復習:誓約書を作成する。
4	実際に実習を行う実習分野(利用者理解含む。)と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解①	実習分野の関連法制や近年の動向等を学ぶ。	予習:実習分野の関連法制について調べる。 復習:授業内容をまとめる。
5	実際に実習を行う実習分野(利用者理解含む。)と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解②	実習施設・機関に係る関連法制や近年の動向、地域等について学ぶ。	予習:実習施設・機関の関連法制や地域について調べる。 復習:授業内容をまとめる。
5	実習先で関わる他の職種専門性や業務に関する基本的な理解	実習施設・機関の専門職の職種や専門性、業務について学ぶ。	予習:実習施設・機関の専門職について調べる。 復習:授業内容をまとめる。
6	実習指導者講話	外部から実習施設・機関の指導者を招き、施設・機関の概要、実習生に求められること等についての講話を聞く。(ゲストスピーカー・実務家)	予習:事前に指導者への質問を考えてくる。 復習:講話内容をまとめる。
7	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成①	実習に行くことを希望する理由、実習に関する不安を他学生と共有し、実習に行く目的、目標を明らかにする。	予習:資料を読む。 復習:計画書を作成する。
8	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成②	ソーシャルワーク実習Ⅱで学びたい事項やその動機などについて文章化し、実習計画書を作成する。	予習・復習:計画書を作成する。
9	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成③	ソーシャルワーク実習Ⅱで学びたい事項やその動機などについて文章化し、実習計画書を完成させる。	予習:計画書を作成する。 復習:計画書を完成させる。
10	一実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成④(三者協議会)	実習計画書をもとに、実習生・実習指導者・教員で三者協議を行う。	予習:実習指導者に質問・相談したいことを考える。 復習:計画書を修正する。
11	実習計画書の修正	三者協議会での実習指導者からの指導を踏まえ、実習計画書を仕上げる。	予習:計画書を修正する。 復習:実習計画書を読み、実習前にすべき課題を挙げる。
12	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解①ー事実に関する項目	1日のテーマ・課題の設定の仕方、1日の流れの記入の仕方などを学ぶ。	予習:昨年度学習した実習記録の書き方を見直す。 復習:実習日誌を書く。
13	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解②ー考察に関する項目	考察と感想のかき分け、考察テーマの絞り方、振り返りのポイントについて学ぶ。	予習:実習記録の書き方について分からない点をまとめる。 復習:実習日誌を書く。
14	実習事前学習④ー巡回指導及び帰校日指導等	巡回指導や帰校日指導の目的、準備すべきこと(課題)を確認する。お礼状の書き方、実習後のまとめの進め方の確認をする。	予習:実習前課題に対する事前学修を進める。 復習:授業内容をまとめる。
15	最終オリエンテーション	実習に関する最終的な確認を行う。実習の目的、マナーや服装・態度、実習における問題発生時の対応、感染症予防、個人情報保護について確認する。	予習:実習前課題に対する事前学修を進める。 復習:当日資料をもとに、各自で振り返り、実習に備える。